

平佐 修

OSAMU HIRASA

ギター・リサイタル

GUITAR RECITAL

1986・9・11・THU

豊平館

Program

ホアキン・トゥリーナ：ファンタンギリョ

Joaquin・Turina Fandanguillo

(1882-1949)

：タルレガ讃歌

Hommage á Tarrega

Garrotion

Soleares

★

アレキサンドル・タンスマン：スクリアピンの主題による変奏曲

Alexandre・Tansman Variations sur un thème de Scriabine

(1897-)

★

ハンス・ハウク：プレリュート、ティエントとトッカータ

Hans・Haug Preludio, Tienlo et Toccata

(1900-1967)

平佐 修：「火山灰地」によせる三章
Osamu・Hirasa 原野にて

沢にて

穫り入れ

★

マヌエル・M・ボンセ：南の協奏曲

Manuel・M・Ponce Concierto del Sur

(1882-1948)

Allegro moderato

Andante

Allegro moderato e festivo

※ピアノ伴奏：城間深美

司馬遼太郎曰く、「志の高さ低さによって、男子の価値がきまる……」と言う。

勿論これは、ある小説の主人公をして言わしめている言葉なのだが……また、「志ほど世に溶けやすく、こわれやすく、くだけやすいものはない……」とも言っている。

男子の……とあるのは、その主人公が男であるからで、今や男にも女にも等しく言える事ではないかと思う。

さて、私がギターを学び始めた頃は（今から二十年程も昔の事であるが……）日本中が“高度成長”の真只中で人々の意識は上へ上へと向っていた様に思える。

当然年若い私や、同時期ギターを学んでいた人達の意識も、ふんぞり返る程に上を向いていたに違いない。

全国的なブームも手伝って、私の札幌に於る初リサイタルには、道新ホールがほぼ一杯になる程の人に聴いていただけたし、他の在札ギタリスト、外来ギタリストのリサイタルも常に満杯であったと記憶している。

そんな好状況の中、ある人は東京へ、また海外へと翔び立ち、幾人かの人は地もとに留まり、それぞれに「志」を持つての活動を始め、今日に続いている。

現在、札幌市内でギターに携っている人の数は十指をくだらない。

だが、演奏会に足を運ぶ人の数が、当時の $\frac{1}{10}$ にも満たなくなってしまうのは何故なのだろうか……。

ブームが去った、演奏会の数が増えた、演奏が聴衆の耳を満足させていない、愛好者の数が減った、レコードが豊富になった……その他思いつく理由にはいちいち頷かざるをえない。

ギタリストは教授活動が中心になり、生活の資を得る事に煩わされている。

かつて、「ギターを弾く為には、生徒を取らなければ続けられない……」と言われたものだが、今はその生徒すら集められない。

そんな現実の中で「志」は溶け、こわれ、くだけてしまっただけではないだろうか……。

軽薄短小の時代と言われる今、「志」を求めると言うのは、物事を面倒臭く感じさせるだけの事なのかも知れない。（平佐 修）

司馬遼太郎曰く、「志の高さ低さによって、男子の価値がさまる……」と言う。

勿論これは、ある小説の主人公をして言わしめている言葉なのだが……また、「志ほど世に溶けやすく、こわれやすく、くだけやすいものはない……」とも言っている。

男子の……とあるのは、その主人公が男であるからで、今や男にも女にも等しく言える事ではないかと思う。

さて、私がギターを学び始めた頃は（今から二十年程も昔の事であるが……）日本中が“高度成長”の真只中で人々の意識は上へ上へと向っていた様に思える。

当然年若い私や、同時期ギターを学んでいた人達の意識も、ふんぞり返る程に上を向いていたに違いない。

全国的なブームも手伝って、私の札幌に於る初リサイタルには、道新ホールがほぼ一杯になる程の人に聴いていただけだし、他の在札ギタリスト、外来ギタリストのリサイタルも常に満杯であったと記憶している。

そんな好状況の中、ある人は東京へ、また海外へと翔び立ち、幾人かの人は地もとに留まり、それぞれに「志」を持つての活動を始め、今日に続いている。

現在、札幌市内でギターに携っている人の数は十指をくだらない。

だが、演奏会に足を運ぶ人の数が、当時の $\frac{1}{10}$ にも満たなくなってしまったのは何故なのだろうか……。

ブームが去った、演奏会の数が増えた、演奏が聴衆の耳を満足させていない、愛好者の数が減った、レコードが豊富になった……その他思いつく理由にはいちいち顔かざるをえない。

ギタリストは教授活動が中心になり、生活の資を得る事に頼わされている。

かつて、「ギターを弾く為には、生徒を取らなければ続けられない……」と言われたものだが、今はその生徒すら集められないでいる。

そんな現実の中で「志」は溶け、こわれ、くだけてしまっていないだろうか……。

軽薄短小の時代と言われる今、「志」を求めると言うのは、物事を面倒臭く感じさせるだけの事なのかも知れない。（平佐 修）



平佐 修

1948年札幌生まれ。ギターを大塚房喜氏に師事。H. コンザレス・モイノー、R・S・テ・ラ・マーサ、N・イエベス、L・プロウエルの各氏にレッスンを受ける。70年第13回全日本ギター・コンクールに入選。72年旭川でリサイタルを開催。翌73年札幌に於いて第1回リサイタルを開催以後4回のリサイタルを行っている。また75年までアンサンブル・ラーウの一員として道内巡演。本年5月細川順三氏と「フルートとギターの夕べ」共演。

道内では札幌を中心に十数都市で、また道外では東京をはじめ仙台、八戸など数都市でリサイタルを行っている。82年には米国ロスアンゼルス市でソロ及び自作品を含むプログラムで一週間公演。ソロ演奏をはじめ、室内楽、器楽・声楽の伴奏、協奏曲等幅広い活動を行っている。

城間深美

札幌大谷短大音楽科卒業。沼田元一・木村雅信の各氏に師事。1983年渡米コーネル大学に於て室内楽をソーニャ・モノゾフ教授に、またイサカ・カレッジに於て、ピアノをメアリー・アン・コバート教授に師事し1985年帰国。札幌現代音楽展会員、モーツァルト・アーベント会員、札幌音楽家協議会役員。



あなたの、最高の音楽のために——!

あなたのための大切な一台のピアノです……

当社取り扱いピアノ

一条本店

- ベトロフ(チェコ、ハラディツラローベ)
- ベーゼンドルファー(オーストリー、ウィーン)
- グロリアン(西ドイツ)
- ブリュートナー(東ドイツ、ライプツィヒ)
- アウグストフェルスター(東ドイツ、レーバウ)
- スタインウェイ(西ドイツ、ハンブルク) = 近日中M型入荷予定

三条店

- ギター・J・ラミス、河野賢、桜井正毅他
 - ハーブ・サルヴィ、ライオンヒーロー、青山
 - マンドリン・エンベルガー、カラーチエテ
- ※ハーブ・ギター教室開講中!
(一流演奏家の指導による)
- 入会はいつでもどうぞ ——

各種ローン3回～60回をご利用下さい。



株式会社

かさはり楽器店

一条本店 = 札幌市中央区南1条西4丁目 ☎221-5336・251-3884

三条店 = 札幌市中央区南3条西5丁目 ☎251-5540